

氏 名：木村 恵美子  
学位の種類：博士（看護学）  
学位記番号：甲第 128 号  
学位授与年月日：2015 年 3 月 10 日  
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 菱沼 典子（聖路加国際大学教授）  
副査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）  
副査 林 直子（聖路加国際大学教授）  
副査 奥津 文子（関西看護医療大学看護学部教授）

論文題目：乳がん患者のリンパ浮腫のリスクファクターと日常生活への影響

### 博士論文審査結果

本研究は、長年にわたる研究者自身のリンパドレナージ施術の経験を通して、同じ病院で同じ手術をしても、なぜ浮腫になる人とならない人がいるのか、経験的に感じていた人とならない人の生活背景の違いを明確にしたいという、臨床に根ざした動機があっけなされたものである。気候等の生活基盤が共通する北海道と東北 3 県に在住の、乳がん術後の女性を対象にし、リンパ浮腫発症群と非発症群を比較したケースコントロール研究である。文献および聞き取り調査を基に、リンパ浮腫の発症要因と日常生活の実態を問う 88 項目からなる、自記式調査用紙を作成した。術後リンパ浮腫が無自覚・無症状の 0 期 225 名、浮腫が発症した I 期 36 名、拳上によっても浮腫が軽減しないまたは線維化が起こっている II 期以上 57 名、計 318 名（回収率 67.4%）のデータを得て、発症・悪化の要因または関連する事項と、病期毎の生活の実態を分析した。

0 期と I 期以上の比較から、文献上指摘されていた多くの因子の内、特に腋窩リンパ節廓清、蜂窩織炎、患肢の動きにくさ、むくんだ頃の変化の 4 項が関連することが示され、さらに I 期と II 期以上との比較から、蜂窩織炎と発症時の BMI が悪化に関連することが示された。また、0 期、I 期、II 期以上それぞれの、浮腫に関する予防行動を含めた生活行動に、特徴があることが示された。

審査においては、リンパ浮腫のレベルを確実に測定しており、信頼性の高い調査になっていること、結果はリンパ浮腫発症の危険性の予測や、予防行動のエビデンスを提供するもので、患者への還元が大いに期待できること、さらにリンパ浮腫に関連した生活行動については、これまでにない貴重なデータであることから、非常に高く評価された。しかしながら、質問項目によってはリンパ浮腫悪化の要因を聞いたのか、生活の実態を聞いたのか混在しており、因果関係が言える事項の整理が必要であるとの指摘を受けた。また、研究デザインの表現が適切か、調査を北国に限定した意味、外れ値の扱い方についても論議された。これに伴い、研究題目、目的の一部修正と、さらに概念図の追加が求められた。これらの指摘に対し、研究題目は「乳がん患者のリンパ浮腫発症に関するリスクファクターの因果モデルの構築」から「乳がん患者のリンパ浮腫のリスクファクターと日常生活への影響」へ変更し、その他の点についても、すべて適切な修正がなされ、審査委員全員により確認がなされた。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。